12 月 31 日（日）第二礼拝「強盗に襲われた者の隣人」　ルカ 10 章 30-37 節

ある律法の専門家に、イエス様は「強盗に襲われた者の隣人」について話をされました。

第一番目、強盗に襲われた者です。あるユダヤ人がエルサレムからエリコに下る道で、強盗に襲われました。エルサレムは、神様がアブラハムに示された所であり、イエス様が十字架につけられ、葬られ、3 日目によみがえり、昇天された所です。そして、五旬節で聖霊が臨まれた所であり、イエス様が再臨される所でもあります。エルサレムはまさに、イエス様の懐、神様の臨在される所です。また、エリコは、ヨシュアがカナンの地を征服する時に滅ぼした都市です。このユダヤ人は、エリコ(霊的な意味：この世)に向かっていた時に、強盗に襲われ、着物をはぎ取られ、なぐられ、半殺しにされたのです。この強盗とはサタンです。盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。しかし、イエス様が来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです(ヨハネ 10：10)。

第二番目、強盗に襲われた人の周りの人たちです。初めに、祭司が道を下って来ました。彼もまた、神様のおられる所から離れ、この世に向かっていました。祭司はその倒れた人を見て、反対側を通り過ぎて行きました。次に通りかかったレビ人も同様に、反対側を通り過ぎて行きました。最後に、サマリヤ人がそこに来合わせます。サマリヤ人とは、アッシリアが北イスラエル(サマリヤ)を占領した際、アッシリア人とイスラエル人から生まれた人々のことです。そのため、イスラエル人はサマリヤ人を犬扱いし、軽蔑していました。ところが、このような扱いを受けていたサマリヤ人が、このユダヤ人を見てかわいそうに思ったのです。このサマリヤ人は、イエス様を表します。イエス様は、強盗(サタン)に襲われた私たちを憐れんで、その傷口にオリーブ油とぶどう酒(イエス様の血)を注いで包帯をし、宿屋まで連れて行ってくださいました。このイエス様の恵みによって、私たちは救われました。

祭司、レビ人、サマリヤ人のうち、強盗に襲われた者の隣人となったのは誰だったでしょうか。律法学者は答えます。「その人にあわれみをかけてやった人です。」すると、イエス様は「あなたも行って同じようにしなさい。」と言われました。

第三番目、宿です。宿とは教会を意味します。サマリヤ人は傷を受けた人たちを宿に連れて行き、宿屋の主人にデナリ２つを渡し、「介抱してあげてください。」と言いました。教会とは、傷を受けた人を介抱し、癒し、イエス様が再臨されるまで保護する所です。そして、この宿屋の主人は教会のメンバー、デナリ２つは御言葉と聖霊です。御言葉は人間となって来られたイエス様を表し、聖霊は油であり、イエス様(水と血)を証する方です(Ｉヨハネ 5：6～8)。神様は福音を教会に預け、聖霊を注いでくださいました。「キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ローマ 8：2) イエス様と同様に、傷を受けた人々に関心を持ち、憐れんで近づき、イエス様の愛を注ぐことが大切です。「もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。」イエス様の再臨の時、私たちの労苦に対して報いを与えてくださると約束してくださっています。アーメン！